

「地域包括ケアシステム」と “新しい総合事業”について

2016年10月13日

「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」に係る
事業者説明会

千葉県保健福祉局地域包括ケア推進課
課長 富田 薫

千葉市の現状と将来予測

なぜ「2025年を目指す」のか ～千葉市の状況予測～

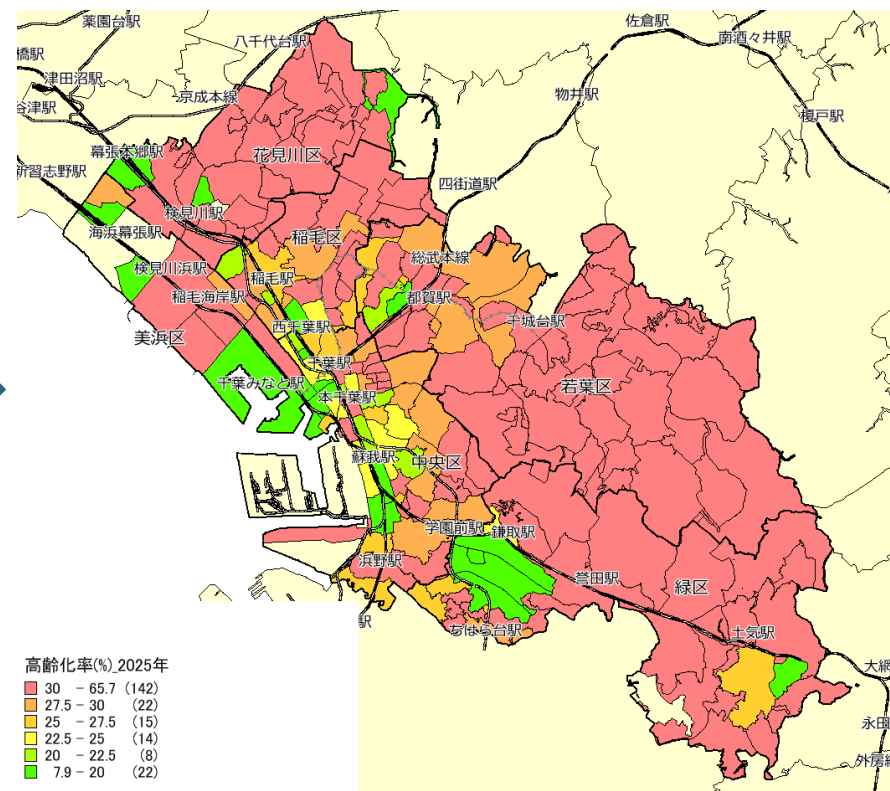
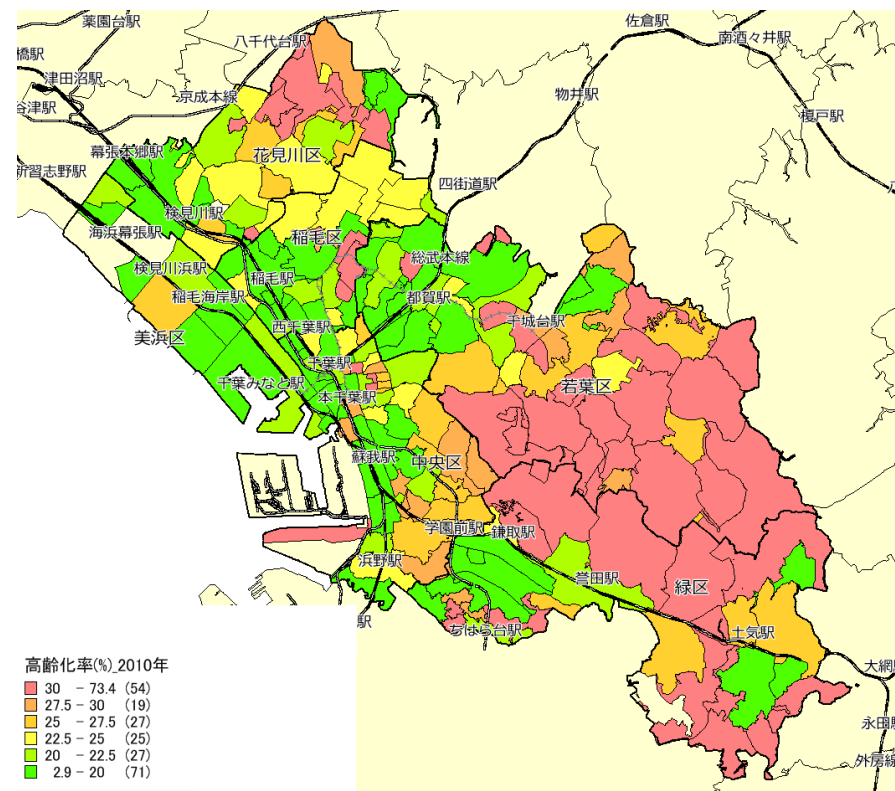
【高齢者人口の推移】

2025年(平成37年)には、総人口は96万2千人、高齢者人口は28万6千人、高齢化率は29.7%になると見込んでいる。



【参考】「千葉大学超高齢社会研究センター」分析による 高齢化率の推移

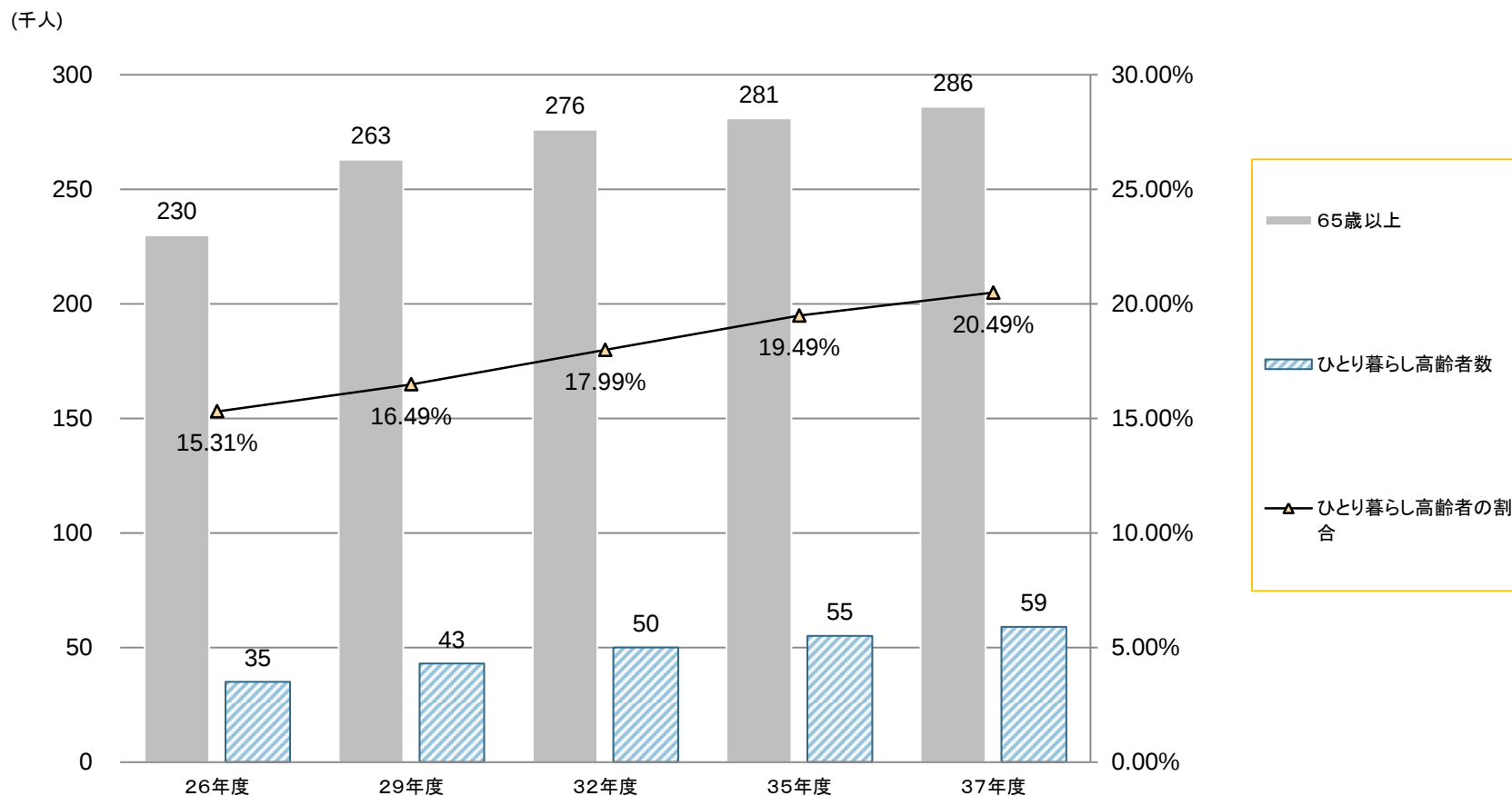
2010年国勢調査と2025年の将来推計値を比較



※平成22年国勢調査人口を利用し、国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）の将来推計生残率、社会移動率及び女性の年齢各歳別出生率を利用し独自に推計

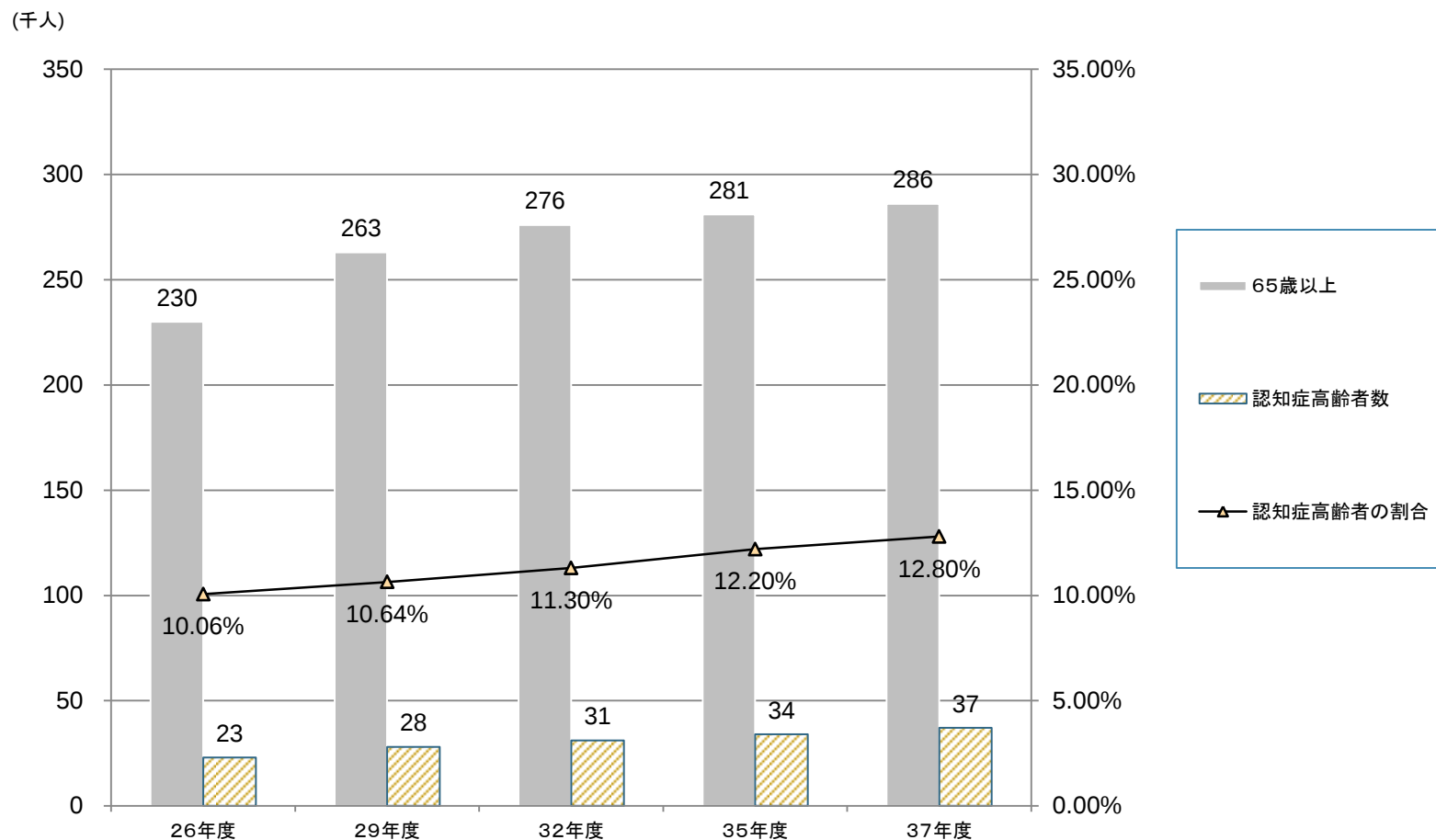
【一人暮らし高齢者数の推移】

2025年(平成37年)には、一人暮らし高齢者は5万9千人、割合としては20.5%になると見込んでいる。



【認知症高齢者数の推移】

認知症高齢者（「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ」以上の高齢者）は2025年には3万7千人になると見込んでいる。

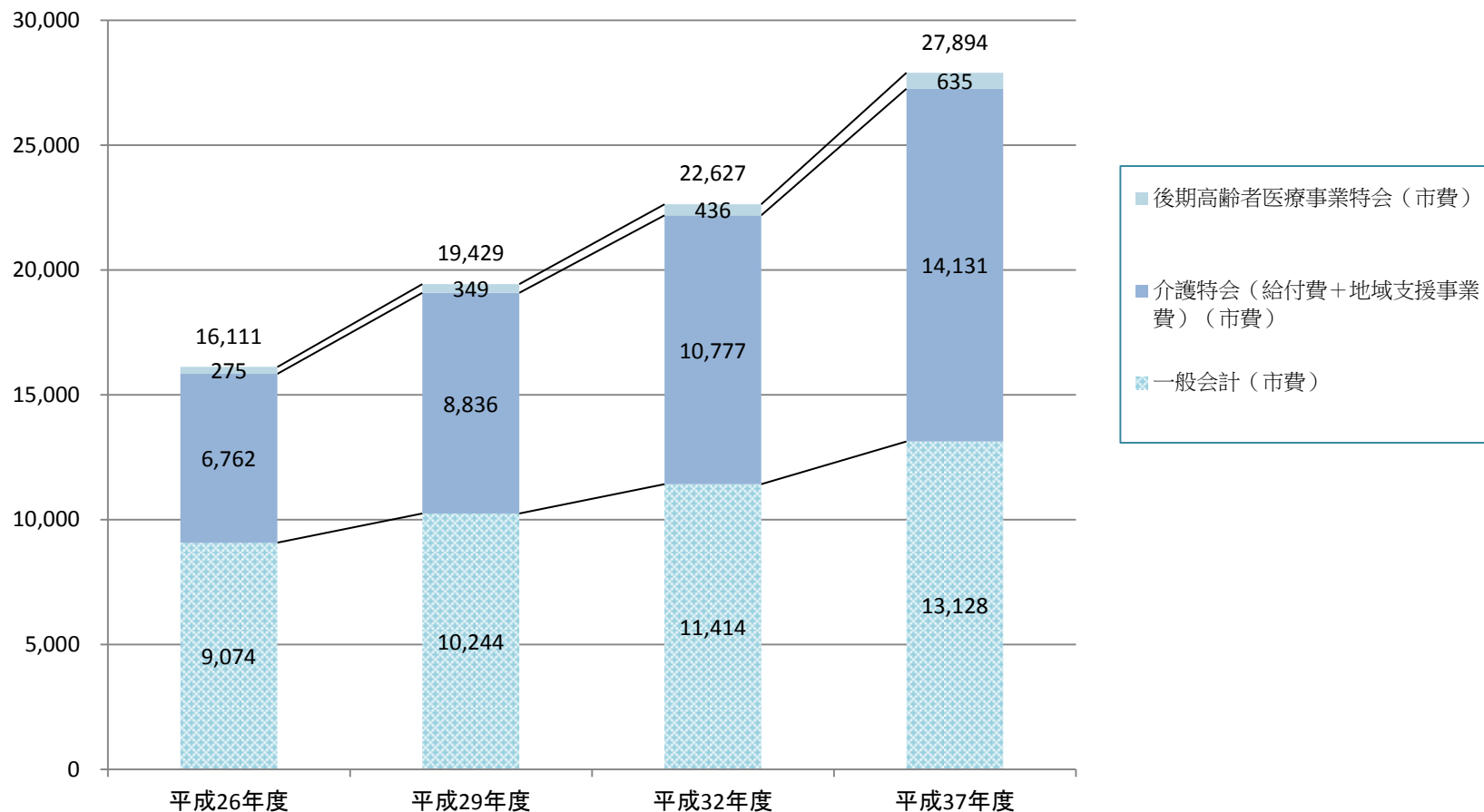


2025年の千葉市は

- 3人に1人が65歳以上
- 65歳以上の方の5人に1人はひとり暮らし
- 65歳以上の方の8人に1人は認知症を患っている？

【主な高齢者関係事業費の推計(市費ベース概算)】

主な高齢者関係事業費については、市費ベースで平成37年度には約279億円となる見込みであり、平成26年度比で約118億円増、約1.7倍となる見込み。

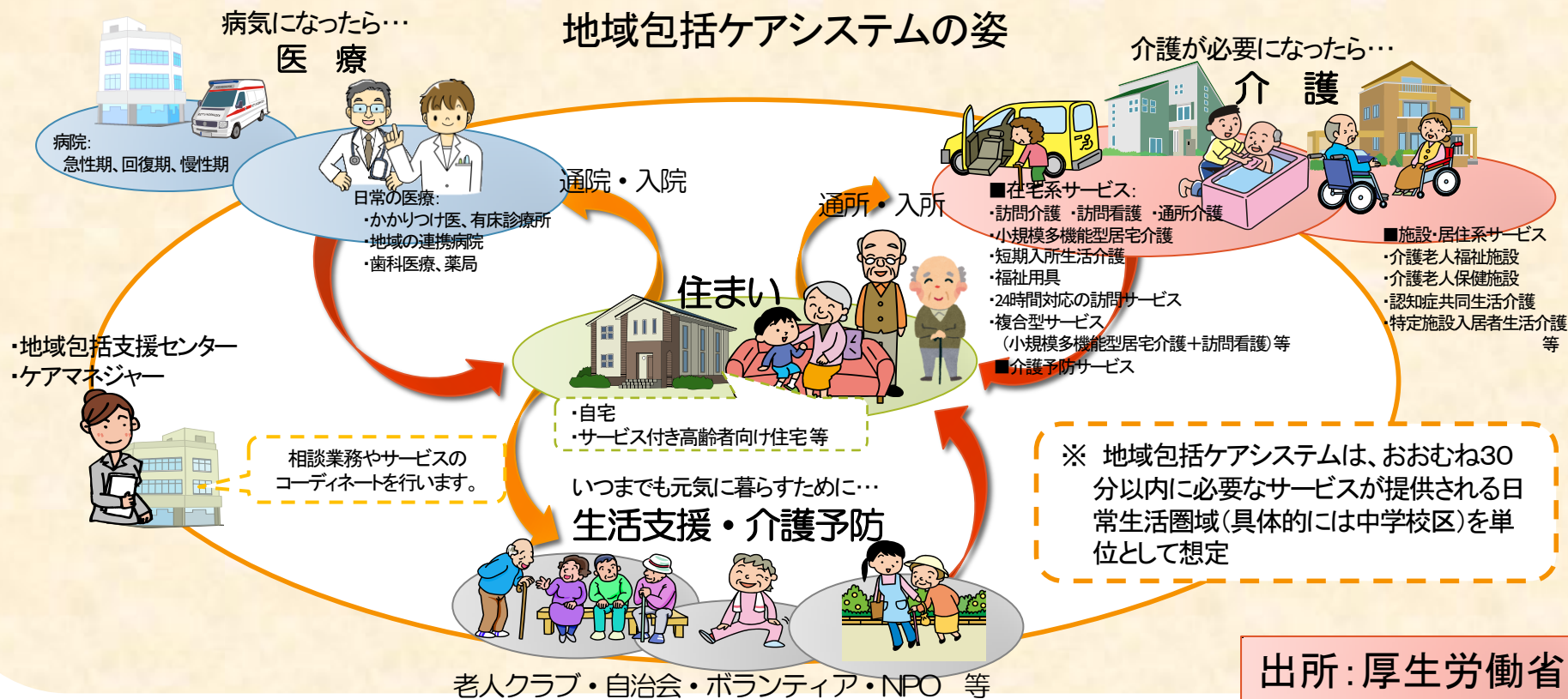


“地域包括ケアシステム”とは

“公助”と“地域でお互いに助け合うしくみ”

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**

地域包括ケアシステムの姿



支え合いによる地域包括ケアシステムの構築について

- 地域包括ケアシステムの構築に当たっては、「介護」「医療」「予防」といった専門的サービスの前提として、「住まい」と「生活支援・福祉」といった分野が重要である。
- 自助・共助・互助・公助をつなぎあわせる(体系化・組織化する)役割が必要。
- とりわけ、都市部では、意識的に「互助」の強化を行わなければ、強い「互助」を期待できない。



自助：・ 介護保険・医療保険の自己負担部分
・ 市場サービスの購入
・ 自身や家族による対応

互助：・ 費用負担が制度的に保障されていないボランティアなどの支援、地域住民の取組み

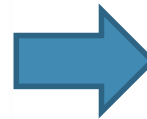
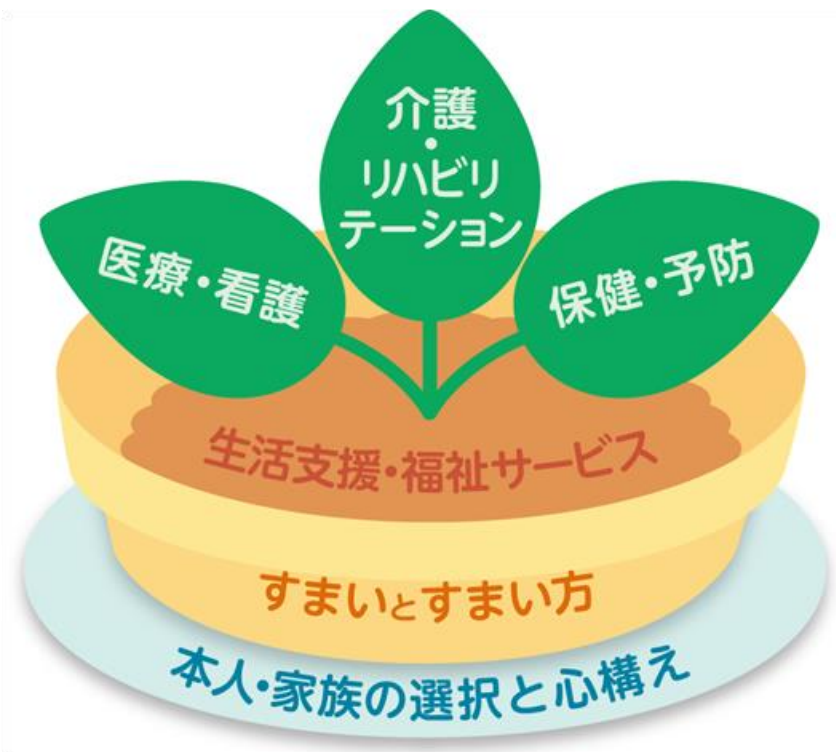
共助：・ 介護保険・医療保険制度による給付

公助：・ 介護保険・医療保険の公費（税金）部分
・ 自治体等が提供するサービス

地域包括ケア研究会「地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点」(平成25年3月)、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」

(地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業)、平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016年より

“植木鉢の絵”進化の意味は



なぜ「新・総合事業」に移行しなければならないのか

人口減少社会＝担い手不足及び
地域ニーズの増大・多様化

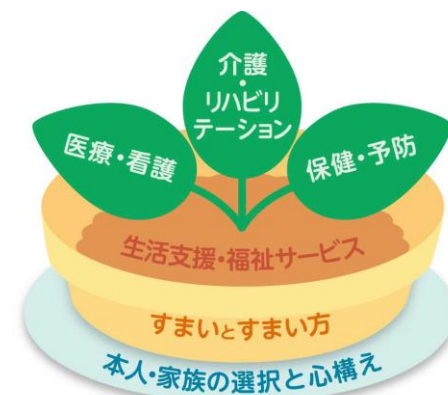
- 介護予防の強化
- 専門職以外の担い手による生活
支援の実現 が有効な手立て

地域包括ケアシステムでは “自助・互助”が基本

～公助・共助がしっかり支える～

“地域包括ケアシステム” 構築のためには

- ・ 1人ひとりが元気に過ごすこと
- ・ 地域の方たちも行政も、同じ目標（暮らしやすい街づくり）に向かって手を繋ぐこと。
- ・ 誰もが“私にもできる”ことを進んで積極的にやること



私にもできる「予防」・「貯金」

かかりつけ医を持ったり、いざという時相談できる窓口を見つけておきましょう

あんしん
貯金

「遠くの親戚より近くの他人」ご近所や、若い方とも仲良くしましょう

介護予防

健康でいるために、体操教室やボランティア活動などに参加しましょう

地域
住民

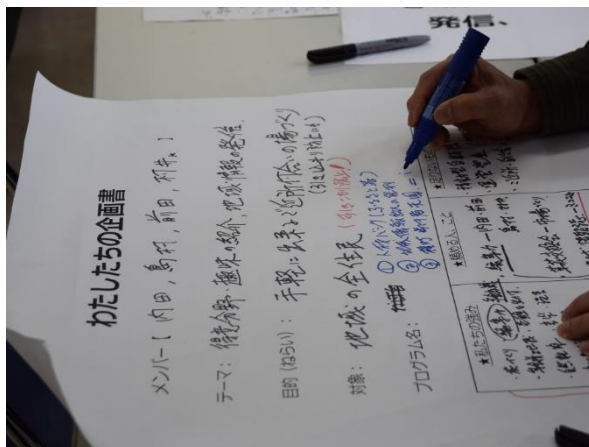
もめごと
予防

介護される側になったときに受けたいケアや、遺産相続のことなどを考えておきましょう

きずな
貯金

東千葉「地域の和・輪・環の会」の特徴！

- 地域の元気な方（70歳代がメイン）がたくさん参加！
- とにかく、男性が元気！（実は女性の方がもっと元気！？）
- 「元企業戦士の男性陣」と「地域の大先輩である女性陣」
- コアメンバーの連絡は、メールでサクサク。その他の会員とは、通い封筒により、アナログでも確実な連絡体制を確立！



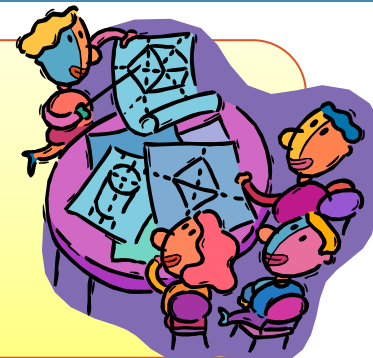
【「ひだまり」での活動】

いきいきサロン
「ゆうあい広場」

原則、
月2回開催



関係団体
の会合



「キッズクラブ」

地域で子ども達の
成長を見守ります。



安全・安心...
「まちの交番」

交通安全教室



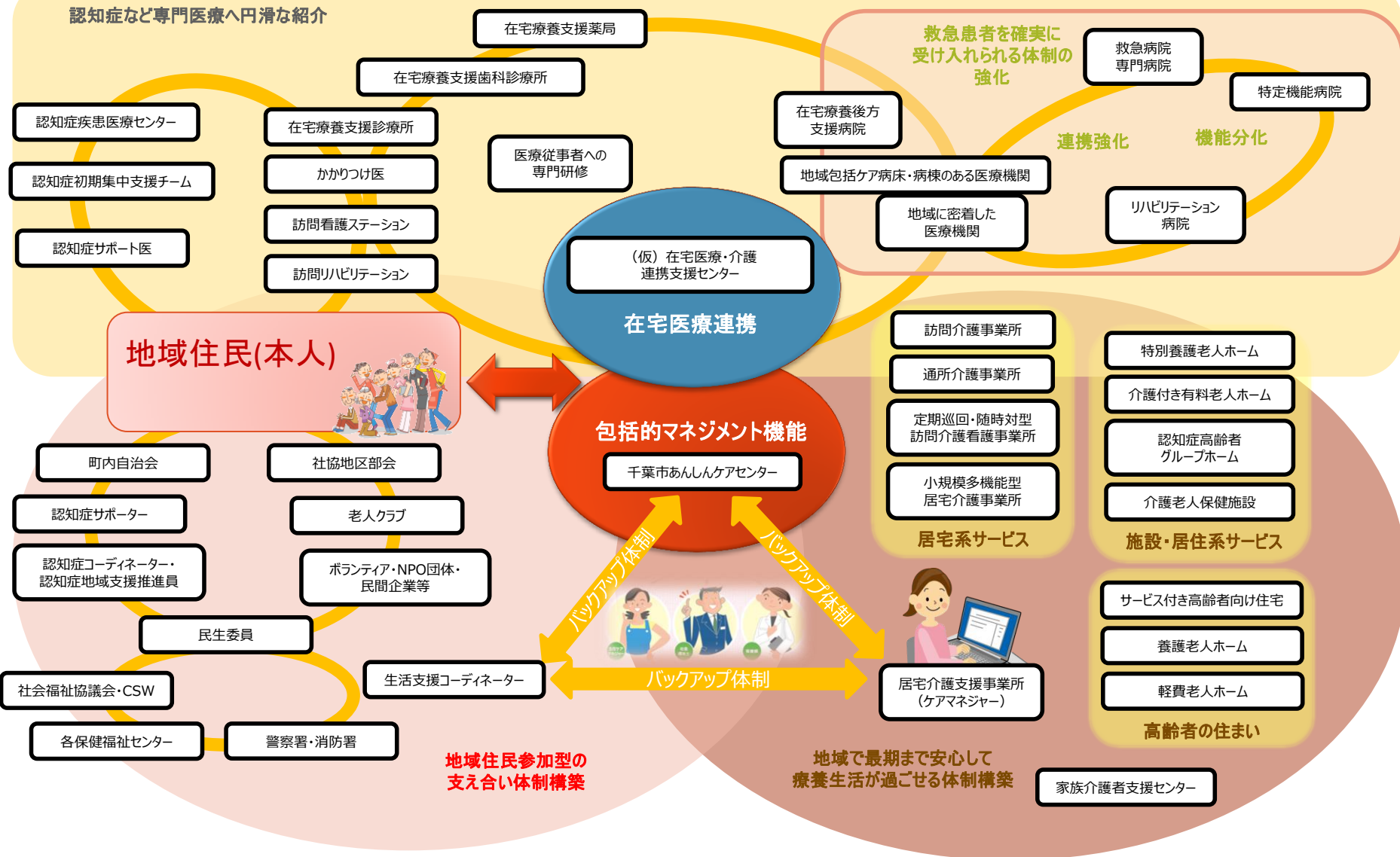
淑徳大学生の応援

“公助”、“共助”
については・・・？

平成28年7月19日改訂

千葉市の地域包括ケアシステムの姿

認知症など専門医療へ円滑な紹介



高齢者保健福祉推進計画に掲げる 8つの柱

- 1 あんしんケアセンターの機能強化
- 2 在宅医療・介護連携の推進
- 3 認知症対策の推進
- 4 生涯にわたる健康づくりの推進
- 5 生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進
- 6 高齢者の住まいの安定的な確保
- 7 支え合いの体制づくりの促進
- 8 安全・安心な街づくりの推進

多様な生活支援はじっくり育てる

「現行のサービスはそのまま残す」が前提

- 本当に必要とする方に専門職のサービスを提供

多様な生活支援ニーズに応える

- ごみ出し、ペットの世話、調理・・・「訪問型B」の可能性
- 元気な高齢者も担い手に？・・・2025年を目途に

専門職はいずれ中重度者のケアへ

- 専門性を問わないサービスは民間や地域住民の互助へ

“慈善事業”ではなく、Win-Winの仕組みを目指す

総合事業も「地域づくり」のひとつ

総合事業は単なるサービス形態を示すものではなく「地域づくり」のひとつ

- じっくりと時間をかけて、例えば、地域の中に「通いの場」を散りばめて行く

「介護予防ケアマネジメント」もブラッシュアップ

- ご本人の「したい」、「なりたい」姿を共有し、自立を支援する
- 地域の中の“居場所”につなげる

一緒に、
“地域づくり”に取り組みましょう

